

■効果の見える治水事業「砂防事業の重要性」

高知県 佐喜浜川水系 中尾川災害関連緊急砂防事業

高知県防災砂防課 課長 さくらい 桜井 わたる 亘



<被害の状況>

平成18年9月16日夜から17日にかけて、山陰沖に停滞した秋雨前線に台風13号から暖かく湿った空気が入り込んだ影響で、高知県の中東部を中心に激しい雨に見舞われた。そのため、高知県東部に位置する室戸市佐喜浜町では、連続雨量180mm、最大時間雨量20mm、風速50mを観測し、この雨の影響で、同市中尾地区では、谷川沿いの斜面が長さ約400mにわたって崩壊し、流出した土砂や流木により人家2戸が全壊、市道へも土砂が流出するなどの被害を受けた。

幸いにも民家にいた人は、いずれも直前に避難して人的被害はなかった。同地区では、過去に同様の被害が発生しており、その時の教訓が活かされた今回の自主避難ではなかったかと思われる。

今回の災害から、「早めの避難」の重要性をあらためて痛感した。

<復旧へ向けた取り組み>

この土石流により流域が著しく荒廃し、再度、土石流が発生する危険な状況となったことから、緊急に砂防えん堤を設置し、今後の土石流災害を防止するため、災害関連緊急砂防事業に着手した。

また、流域内には保安林の指定もあり、林地内の立木が流出して流木による災害が発生するおそれもあることから、森林部局が所管する林地荒廃事業と連携して、流域全体の総合的な対策を図ることとした。

<災害関連緊急砂防事業の概要>

- 被害実績: 人家2戸全壊、市道埋塞、田畑2ha埋没、流出土砂量約8,000m³
- 実施内容: 砂防えん堤1基(堤長45.0m、堤高14.5m)、溪流保全工
- 総事業費: 141,120千円



最後に用地を提供してくださった地権者の皆さまをはじめ、事業にご協力いただいた地域住民の皆さま、並びに関係機関の方々から感謝申し上げます。

談話室

□地域を元気にする活動

室戸市長 こまつ 小松 けんじ 幹侍



室戸市は四国の東南部にあり、総面積248km²の中に17,322人の方々が生活している町であります。

室戸岬半島を中心に、東側ではダルマ朝日が西側でダルマ夕陽を見ることが出来ます。

そして、空海の修行の伝説とともに四国八十八箇所の24番最御崎寺、25番津照寺、26番金剛頂寺の3つの札所がございます。

海からは海洋深層水を汲み上げており、飲料水や農業(深層水なす)、深層水プール、ジーンズの漂白など、その利用が広がっています。

最近の話題は、地質公園ジオパーク構想です。室戸の海岸で見られる枕状溶岩や斑レイ岩、海岸段丘などの地質遺産は大変重要なものだと言われています。

室戸市では現在、世界ジオパークネットワーク認証及び日本ジオパークネットワーク認証への取り組みが進められています。

次に、吉良川町並み地区(重要伝統的建造物群保存地区)では、本年度市の「室戸ものづくり・元気づくり事業」を活用して「吉良川町並み・お休み処、ぺっぴんさんの家」がオープンしました。町並みを散策しながらゆっくりとお茶を飲んだり、室戸の食材を味わう憩いの場所です。来られた方は是非とも御利用願いたいと思っております。

また、佐喜浜町では平成18年9月台風13号の豪雨により、土砂崩れがあり、その後砂防工事や林地荒廃防止などの災害復旧工事を実施していただきました。

当該地域では、地域の方々が力を合わせて新しい農作物の栽培を協働して行うことや、上水道が設置されていない地域の生活用水の確保事業などを進め、集会所の利活用と地域の活性化に取り組んでいるところであります。

市としても、これら地域活動を支援し元気の室戸にしなければならないと考えています。



ディープシーワールド



おん だ はちまんくうあきまつり
御田八幡宮秋祭